

令和 7 年度保健科学部学校推薦型選抜試験

総 合 問 題

(時間 : 100 分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は 14 ページ、解答用紙は 3 枚です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。また句読点も 1 字として 1 マスに記入してください。
- 5 問題冊子の余白は適宜利用してかまいません。
- 6 試験終了後、解答用紙のみを回収します。

[1] 次の英文を読み、後の設問に答えなさい。(人名など固有名詞は英語表記のまま解答してよい。)

著作権処理が未完了のため
公開できません

(*The Asahi Shimbun*, April 23, 2023, modified)

Notes (*):

- * randoseru : ランドセル、オランダ語の "ransel" が語源
- * be under way : 進行中である
- * undermine : 徐々に弱める
- * coin : を作り出す
- * one ... or another : なんらかの～
- * innocuous : 無難な、無害な

問 1 下線部 (A) の[]内の語句を並べかえて最も適当な文を完成させなさい。

問 2 下線部 (B) の具体例を、第 2 パラグラフの内容に即して日本語で説明しなさい。

問 3 下線部 (C) による発見を、日本語で説明しなさい。

問 4 下線部 (D) と最も近い内容の文章を選びなさい。

1. The author does not realize the impact of his words on other people.
2. The author is reminded of the colors available when shopping at different times of year.
3. The author regrets that his youngest son went with his older brother to pick out a randoseru.
4. The author still regrets pointing out the color of the randoseru his son preferred.
5. The author suggests that stereotypes should apply to race as well as gender.

問 5 空所 (i) ～ (iv) に次の[]内に与えられた前置詞から最も適切なものを選びなさい。各前置詞は 1 回だけ使用できます。

[of, to, in, at]

問 6 本文の内容と合っているものを 2 つ選びなさい。

1. The stereotype threat can influence the way people perceive things.
2. In the end, the author's youngest son chose a red randoseru.
3. Gender stereotypes about the colors of backpacks are innocuous.
4. Quite a few children have experienced being told that they were "boys" or "girls".
5. The author's son avoided buying a gray randoseru, influenced by the stereotype threat.

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

著作権処理が未完了のため
公開できません

著作権処理が未完了のため
公開できません

著作権処理が未完了のため 公開できません

[青山拓央『心にとって時間とは何か』講談社，2019。 一部改変]

問1 下線部(1)「周囲に聞こえないくらいの声で「今」とつぶやく」ことで2つの作業を行なっていると著者は述べている。それぞれの作業の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア) 第1の作業は目の前の現実と関わりのない思考を表出することであり、第2の作業は時間的な足場を明確にするものである。
- イ) 第1の作業は過去や未来への雑念あるいはその他の空想から現実に関心を向けることであり、第2の作業は時間的な足場をしっかりと見ずに、あちこちを眺めるものである。
- ウ) 第1の作業は雑念あるいは空想からボンヤリした「今」に意識を戻すことであり、第2の作業は人生という本の間違ったページを眼前に開いて眺めることである。
- エ) 第1の作業は心のさまよひから自分を呼び覚ますものであり、第2の作業はたしかにここまで生きたという現実を明確にするものである。

問2 下線部(2)「時間に関してそうした速さを認識するというのは奇妙である。」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを選びなさい。

- ア) 速さは、ある基準となる時間より前であるとか後であるということによって認識されるものだから。
- イ) 速さは、特定の時間に生じた運動や変化の量の認識であり、時間における変化の量はその時間で示すことができないから。
- ウ) 速さは、草木の成長や太陽の動きといったあらゆる対象に早回しの変化が生じた際に認識されるものだから。
- エ) 速さは、ある時間内で生じた運動や変化量の認識であり、河の流れの速さのように時間の速さを感じることができるから。

問3 下線部(3)「だれもそれに気づかないだろう。」とあるが、それはなぜか。その理由について文中の言葉を用いて70字以内で説明しなさい。

問4 下線部分(ア)～(オ)の[]に相当する漢字を含むものを、1～4のうちから、それぞれ一つ選びなさい。

(ア) サン [マン]

1. 労働における[マン]セイテキな人手不足が深刻化している。
2. 目的なく[マン]ゼンと過ごしている。
3. 感染症の[マン]エンを予防する。
4. 私たちは旅行を[マン]キツした。

(イ) キ [カン]

1. 彼はその行事に深く [カン] ヨしている。
2. 平日の行楽地は [カン] サンとしている。
3. 風が強いのでタイ [カン] の温度は気温よりも低い。
4. 風邪をひいたのか熱が出てオ [カン] がする。

(ウ) [カン] ヨウ

1. 間違えないように慎重に対処するのが [カン] ジンだ。
2. 起きてすぐに一杯の水を飲むことがシュウ [カン] となっている。
3. 彼女の [カン] キュウ自在の演奏は努力の賜物だ。
4. 正しく判断するために、まずは事実をガイ [カン] することが必要だ。

(エ) [ユウ] セイ

1. 時間が迫っているにも関わらず [ユウ] チョウに準備をしている。
2. 美味しそうな香りが食欲を [ユウ] ハツする。
3. 着ているものから彼女の [ユウ] フクな生活がうかがえる。
4. 誰も知らなかった事実を知って、ほのかな [ユウ] エツカンを感じた。

(オ) フメイ [リョウ]

1. 価格上昇の推移はグラフにすればイチモク [リョウ] ゼンであった。
2. 彼は自分の [リョウ] ブンを守り、他人の仕事に口出ししない。
3. 毎日努力をしたことが報われて、カンム [リョウ] だ。
4. 荷物運びのアルバイトは、体が鍛えられてお金ももらえるので、イッキョ [リョウ] トクだ。

試験問題は次ページに続く。

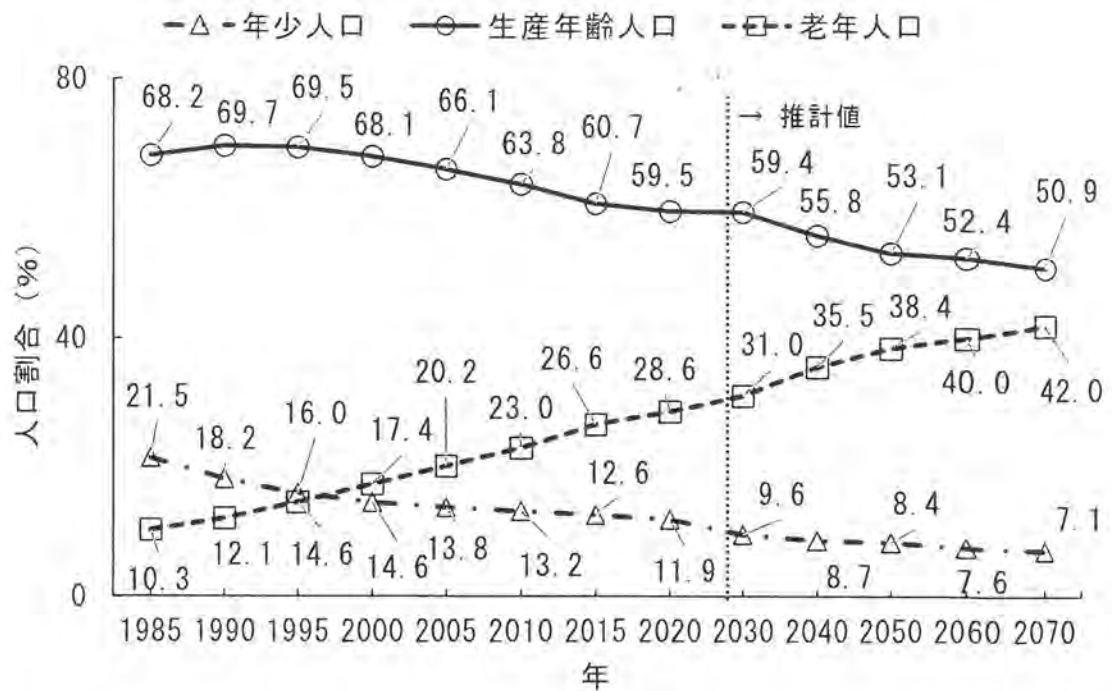
〔Ⅲ〕以下の設問に答えなさい。

資料 1 は全国における年齢階級別人口割合の推移を示したものである。年齢を年少（0～14 歳）、生産年齢（15～64 歳）、および老年（65 歳以上）に分け、それぞれの割合（％）を示している。また、2030 年以降は推計値を示している。資料 2 は福島県における年齢階級別人口（単位：万人）の推移を示したものである。

問1 資料 1、2 に基づき、正しいと判断できるものには○を、誤りを含むものには×を記しなさい。

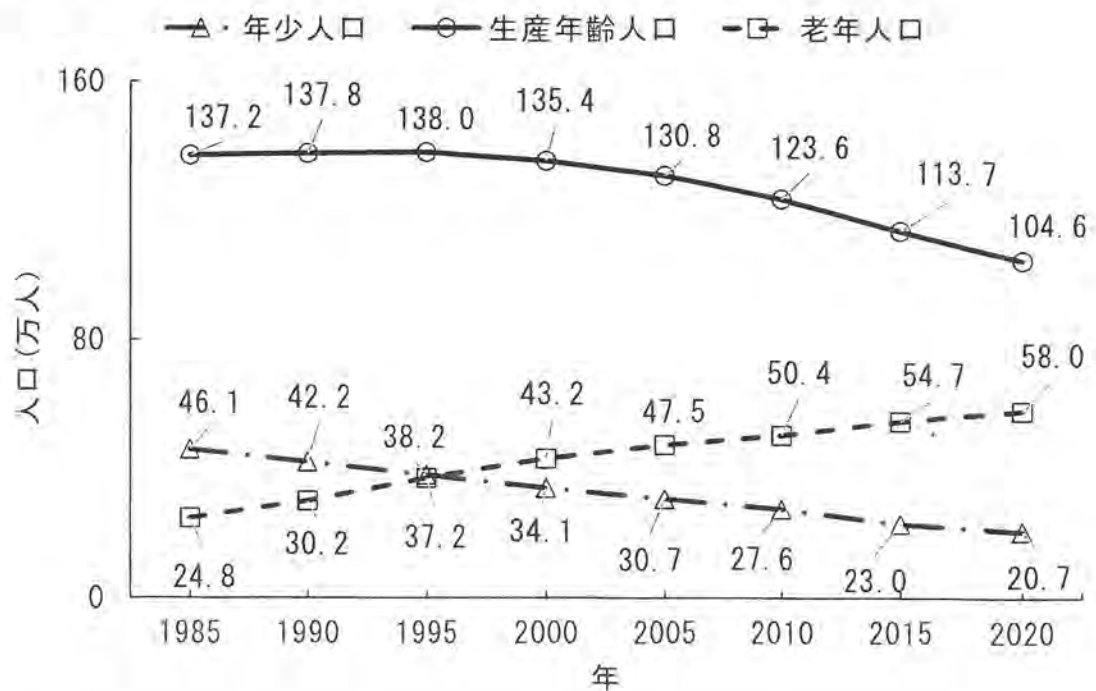
- (a) 全国の生産年齢人口割合は、1995 年から連続して減少している。
- (b) 全国の老年人口割合は 2010 年から年少人口割合を上回り、かつ 2020 年には総人口の 1/4 を超えている。
- (c) 推計によると年少人口、生産年齢人口、および老年人口の全ての全国の人口割合は 1995 年以降の増減の傾向を 2070 年まで維持する。
- (d) 2020 年の福島県の生産年齢人口割合は、同年の全国の生産年齢人口割合より高い。
- (e) 福島県の 2020 年の年少人口割合は、1985 年の同割合の半分未満となっている。

資料1 全国における年齢階級別人口割合（％）の推移



(出典 総務省統計局「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」、一般財団法人厚生労働統計協会「図説 国民衛生の動向 2023/2024」、一部改変)

資料2 福島県における年齢階級別人口（万人）の推移



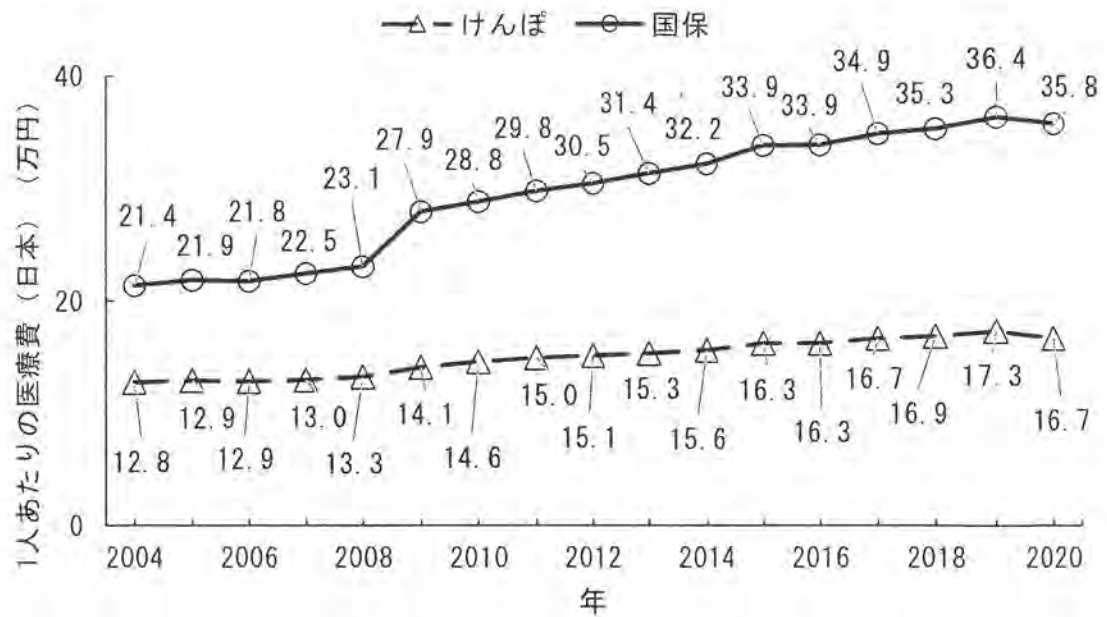
(出典 福島県企画調整部統計課編「福島県勢要覧」平成17年および令和5年版から作成)

問2 資料 1 の 2020 年から 2070 年の実績値及び推計値の各年齢階級別に全てのデータを用い、年については 2020 年を 0 年とした年数として年数 x から人口割合 y を推定する一次式を求めると、年少人口で $y = -0.087x + 11.0$ 、生産年齢人口で $y = -0.191x + 59.9$ 、老年人口で $y = 0.277x + 29.0$ となった。

- 1) 今後このまま推移すると、どこかで老年人口割合が生産年齢人口割合を超えると予想できる。問題に示した一次式を用いて、老年人口割合が生産年齢人口割合を上回る年が何年となるかを答えなさい。また、その計算式も示しなさい。なお、最終解答は小数点以下を切り上げて整数で答えなさい。
- 2) 人口割合の増減に関して資料 1 の全国の推計値と同じ傾向が福島県に当てはまるとすると、2070 年の福島県の老年人口は何万人になるか。問題に示した一次式を用いて推計し、小数第 2 位を四捨五入した値として答えなさい。また、その計算式も示しなさい。なお、2070 年の福島県の人口総数は 110 万人とする。

資料 3 は全国における 1 人あたりの医療費（単位：万円）の推移を示したものである。全国健康保険協会管掌健康保険（けんぽ）および国民健康保険（国保）のデータを示している。
資料 4 は福島県における 1 人あたりの医療費（単位：万円）の推移を示している。

資料3 全国における1人あたりの医療費の推移



(出典 全国健康保険協会「医療費分析」、県国民健康保険課「国民健康保険事業状況」、一部改変)

資料4 福島県における1人あたりの医療費の推移



(出典 福島県企画調整部統計課編「福島県勢要覧」平成19年～令和5年版から作成)

問3 生徒の A さんと B さんは教師より資料 3 と 4 を与えられ、2009 年以降のこれらのデータからわかることは何かを資料 1 と 2 も参考にしながら議論して考えなさい、と指示されました。そこで、二人で議論しながら以下の流れで資料からデータを抽出して解析し調査を行いました。この中の空欄に当てはまる語句を選択肢群から選んで答えなさい。ただし、同じ語句を複数回使用してはいけません。

- A) まず、資料 3 と 4 を見てみよう！
- B) 1 人あたりの医療費が全国と福島でどのような関係があるかを調べたいな。
[①] を作成しよう。
- A) そうだね、作成したら図 1 になったよ。
- B) 両保険とも、ほぼ同じ [②] にプロットされているね。
- A) ということは、両保険にはとてもよい [③] 関係がありそうだと言って良いね。
- B) そうだね、全国と福島県の年次推移の傾向は保険の種類に関係ないのだね。
- A) 1 人あたりの医療費が保険の違いでどうなっているか調べてみない？
- B) そうしよう。では、けんぽを横軸に国保を縦軸に同じようにグラフを作成してみよう。図 2 のようになったよ。
- A) なるほど、ほとんど一緒のところ重なっていて [④] はほとんどないね。
- B) ということは、全国と福島県で傾向はほとんど一緒だったということだね。
- A) でも、けんぽに比べて国保は医療費がおおよそ [⑤] になっているよ。
- B) ほんとうだ、国保の方が医療費が高いのだね。どうしてだろう？

図1

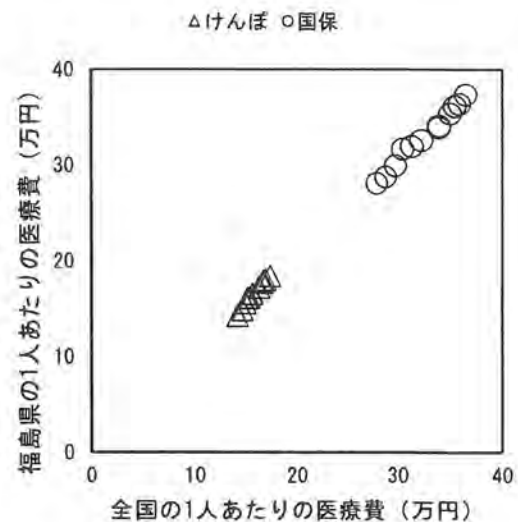
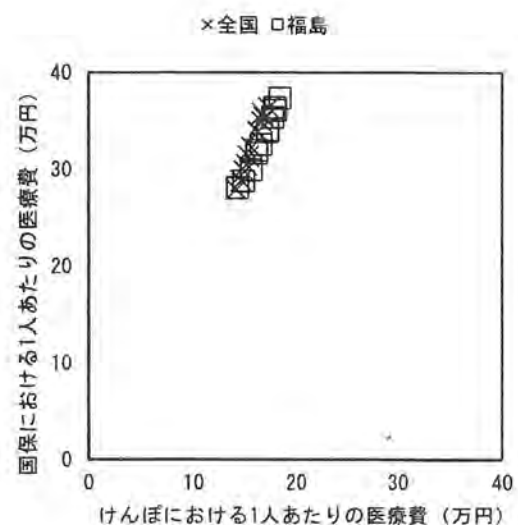


図2



A) けんぽは健康保険組合がない企業で働いている人が加入するのだよね。働き盛りの人が多いよね。でも、国保は他の保険に加入していない人が加入するのだね。定年退職された方も加入するのだね。

B) なるほど、ということはけんぽより国保の方が〔 ⑥ 〕の加入が多いということかな？75 歳以上は後期高齢者医療制度に移行するといっても、それでも〔 ⑥ 〕が多いようだね。

A) そうだね、国保の医療費がけんぽのより高いのは〔 ⑥ 〕が多いからかもしれないね。では、これを仮説として検証してみよう！

B) わかった！年ごとの医療費の上昇の割合と老年人口の増加の割合の関係を調べてみよう。関係を作図したら、図 3 のようになったよ。

A) このデータの傾向をよく表す 1 次関数の式も出してみてよ。

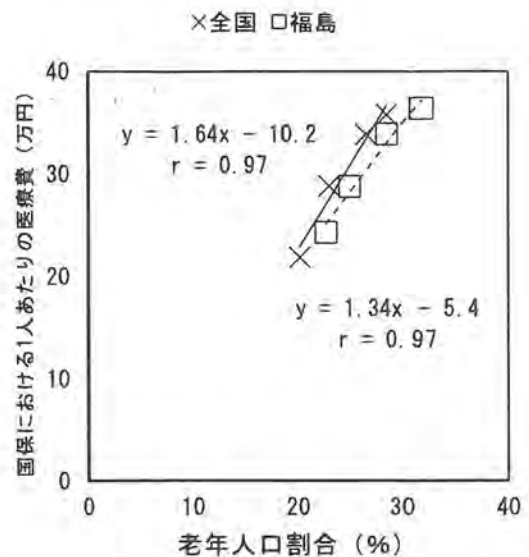
B) 全国で $y = 1.64x - 10.2$ 、福島で $y = 1.34x - 5.4$ となったよ。それらの相関係数は全国で 0.97、福島で 0.97 だったよ。

A) ありがとう！これだととても強い〔 ⑦ 〕の相関だね。

B) ということは、老年人口割合が増えると医療費が増える、と言って良いね。

A) そうだね、手元にある資料ではそう言えるね。色々とわかったから先生に報告しよう！

図 3



選択肢群

半額	同額	2 倍	3 倍	4 倍
ヒストグラム	箱ひげ図	散布図	直線上	曲線上
階級	度数	分布	同異	差異
正	負	相関	因果	年少者
生産年齢者	高齢者	若年者		